Panasonic®

工事説明書

カラーテレビドアホン

品番 VL-SV104K（ブイエル エスブイ ケイ）
(電源コード式)

VL-MW104K
（カラーモニター親機）
VL-V564-K
（カラーカメラ玄関子機）


VL-MW104K


VL-V564-K

工事をされる方へ

■ 正しく、安全にご使用いただくための工事・設置方法について記載しています。よくお読みいただき、工事説明書に従って工事を行ってください。
- 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- 工事終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

■ 別売の機器を増設する場合は、「配線系統図」(14～15ページ)を確認してください。

■ 本書では、カラーモニター親機を「ドアホン親機」、カラーカメラ玄関子機を「ドアホン」と表記しています。

もくじ

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は絵表示の一例です。）

🚫	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

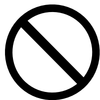
■AC100 V の電源直結工事は資格を持つ者が行う



感電の原因になります。

- 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。
販売店へご相談ください。

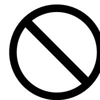
■電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない



禁止

感電の原因になります。

■雷のときは配線工事をしない



禁止

火災・感電の原因になります。

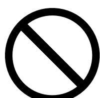
■機器の内部には絶対に触れない (高電圧あり)



接触禁止

感電の原因になります。

■指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない



禁止

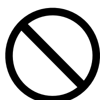
ショートして火災・感電の原因になります。

■質量に耐える指定の方法で取り付ける



ゆるみやはずれで落下し、事故の原因になります。

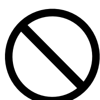
■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V 以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

■ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない



禁止

火災・感電の原因になります。

■チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 V が通電されていないことを確認する



そのまま使用すると、感電の原因になります。

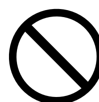
- 販売店へご相談ください。

 注意

■ 屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する


感電の原因になることがあります。

■ 土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない


禁止

絶縁劣化により、感電の原因になることがあります。

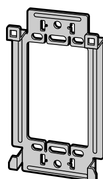
本体と付属品

● ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

□カラーモニター親機....1台



□壁掛け金具 ※1 ......1個

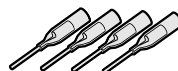


□壁掛け用木ねじ・小ねじ ※1.....各2個

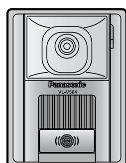

木ねじ
（4 mm ×16 mm ）


小ねじ
（4 mm ×25 mm ）

□棒型圧着端子 ※1.....4個



□カラーカメラ玄関子機 1台



□壁掛け用木ねじ・小ねじ ※2.....各2個


木ねじ
（3.8 mm ×20 mm ）


小ねじ
（4 mm ×25 mm ）

※1 カラーモニター親機の背面にあります。
※2 カラーカメラ玄関子機の背面にあります。

設置上のお願い

設置場所について

こんなところには設置しない

故障や通話不良などの原因になります。

- 振動、衝撃のあるところ
- 硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 反響の多いところ
- テレビ、電子レンジ、パソコン、エアコンなど、電気製品の近く

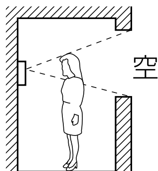
ドアホン親機の設置について

- 本機は、2.4 GHz (ギガヘルツ)の周波数帯の電波を利用しています。別添付の取扱説明書共通編「使用上のお願い」および「電波について」をよくお読みのうえ、設置してください。
- 強電界地域では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。
- ドアホンから約 5 m 以上離して設置してください。
- 本体の上下左右に 20 cm 以上の空間をとってください。（誤動作や通話の途切れ防止）
- 本体を埋め込まないでください。
- 別売のドアホンアダプターを利用してパナソニック製のドアホン対応電話機(ファクス)を接続するとき
  ➡ ドアホン親機は、ドアホンアダプターと電話機(ファクス)から、それぞれ約 1 m 以上離して設置してください。
  ただし、デジタルコードレス電話機(ファクス)を接続する場合は約 3 m 以上離してください。（電波の干渉を避けるため）

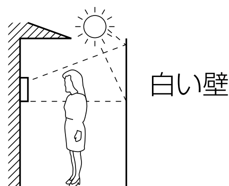
ドアホンの設置について

- 逆光の場合、来訪者の顔が識別しにくくなりますので、下図のような場所への設置は避けてください。

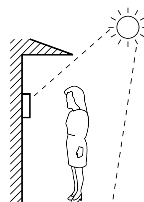
マンションの階上など、背景に空の占める割合の大きい玄関



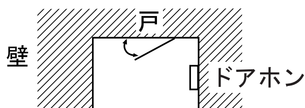
正面に、直射日光が反射する白壁がある玄関



直射日光があたるような、南向きの明るい玄関



- 下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音が鳴ることがあります。



- 背面に水などが直接かからないようにしてください。

工事について

● 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。

(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3.0 mm 以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

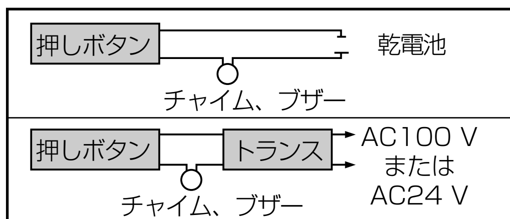


今お使いの機器から取り替える場合

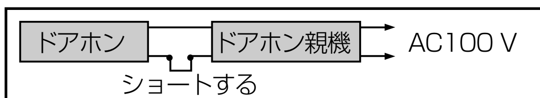
既存のチャイム、ベル、ブザーの配線を利用して、テレビドアホンに切り替えるときは

● **既存品の配線に電源（AC100 V、24 Vなど）が接続されている可能性があり、接続すると故障の原因になりますので、**必ず電気工事士の資格を持つ方が工事を行ってください。
● 工事の際は、まず電源を切り、配線材の線種 (φ 0.65 mm またはφ 0.8 mm) を確認後、下図のように配線してください。
※線種がφ 1.6 mm のときは、φ 0.65 mm またはφ 0.8 mm の配線材に取り替えてください。

既設の配線例



次のような配線に



• 押しボタン→ドアホンに変更する
• トランス→ドアホン親機に変更する
• チャイム、ブザー→ショートする

● 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線 2 線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、右記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 V にて 1 MΩ以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω以内（総長100 m 以内で）

● 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
• 使用する埋込みボックス(電源線とその他の信号配線材の間)に、堅牢な隔壁を設ける。
• 金属ボックスを使用する場合は D 種接地を行う。
• 配線材は AC600 V 以上の絶縁電線を使用する。

● ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
（金属管は必ず大地アースをすること）

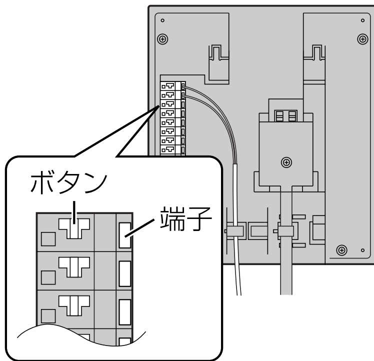
● AC100 V 以上の電力線(電灯線)とは 1 m 以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。

(次ページにつづく)

設置上のお願い（つづき）

● ドアホン親機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
（接続できる線種などについては、14～15ページの「配線系統図」を参照）

<ドアホン親機>



配線材を挿入する場合

- 配線材の被ふくを約 9 mm むく。
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

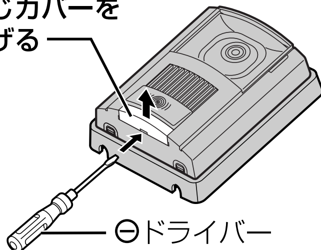
配線材を抜く場合

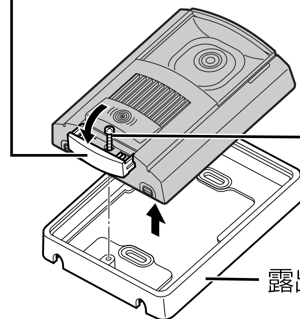
- ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

● 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

ドアホンを取り付ける

1 露出ケースを外す

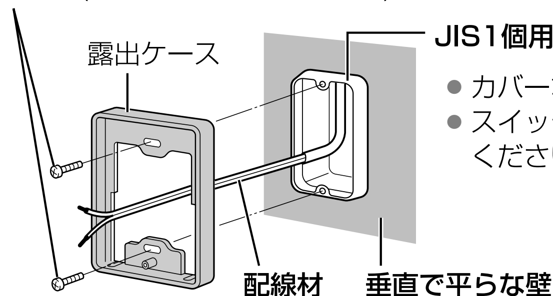




2 露出ケースを壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスに取り付けるとき

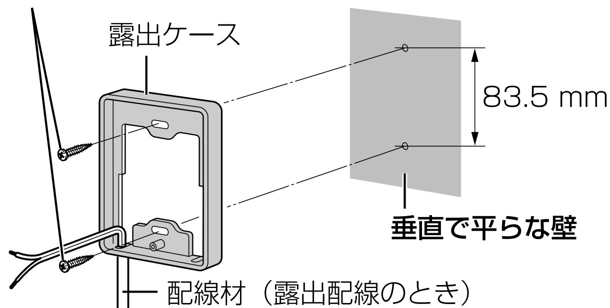
小ねじ(4 mm×25 mm 付属品)



JIS1個用スイッチボックス(カバー付き)
- カバーなしには取り付けられません。
- スイッチボックス底面には水抜き穴を設けてください。

■ 壁に直接取り付けるとき

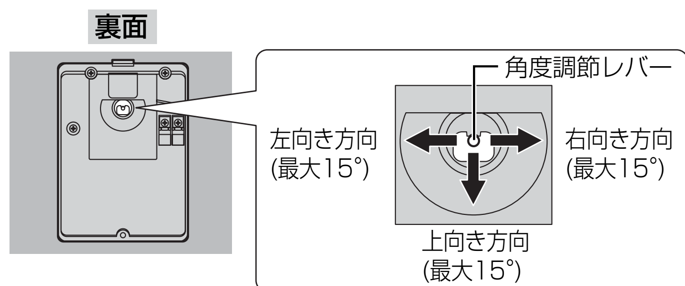
木ねじ(3.8 mm×20 mm 付属品)



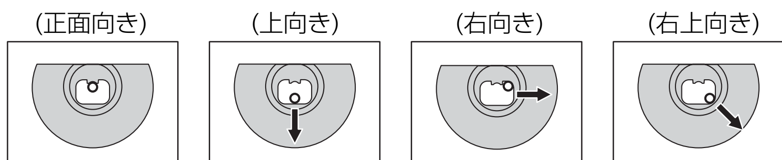
(次ページにつづく)

3 カメラレンズの角度を調節する

● 最大15°の範囲内で、自由な角度に調節できます。



<角度調節レバーの調節例>



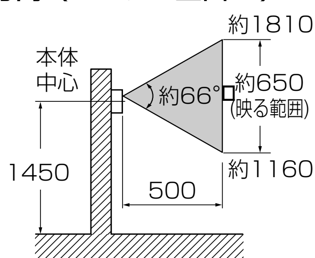
※左上向きにも
調節できます。


お知らせ

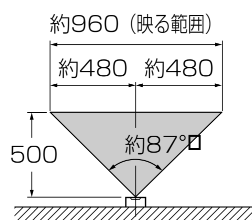
● カメラのレンズを「左上向き」または「右上向き」に設定すると、画像がひずむことがあります。

取り付け位置とカメラに映る範囲（単位：mm）

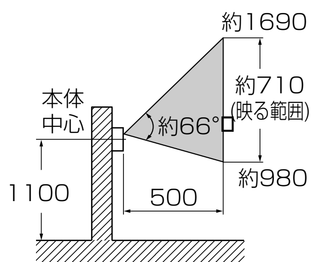
■ 上下方向（カメラ：正面0°）



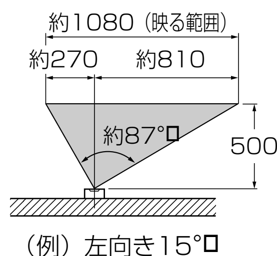
■ 左右方向（カメラ：正面0°）



■ 標準より低い位置(1100 mm)に取り付けるとき（カメラ：上向き15°）

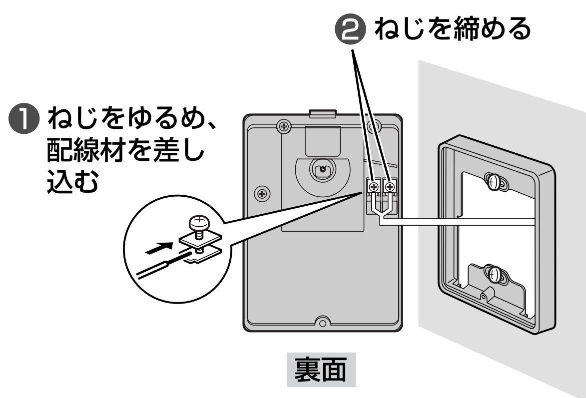


■ 正面より左または右に取り付けるとき（カメラ：左または右向き15°）

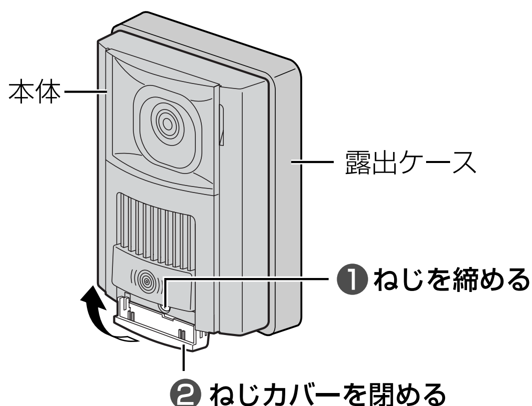


（例）左向き15°

4 配線材を接続する

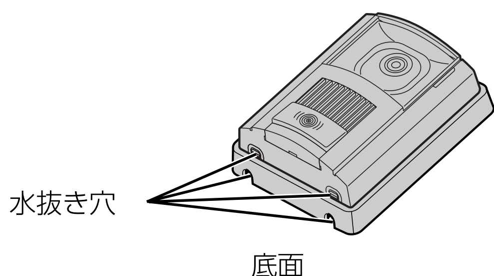


5 本体を取り付け、固定する



お願い

● 雨水を抜くための水抜き穴(4 か所)は、ふさがないでください。



お知らせ

● **下記のカメラ角度調節台(別売品)を使うと、ドアホンの取付角度を変えることができます。詳しくは、カメラ角度調節台に付属の説明書をご覧ください。**

(2005年7月現在)

品　番	備　考	
VL-1301A	縦用	補正角度：上下方向6°
VL-1302A	横用	補正角度：左右方向30°

(次ページにつづく)

ドアホンを取り付ける（つづき）

エントランスポールやサインポストへの取り付けについて

● 下記のエントランスポールやサインポストに取り付けることができます。（2005年7月現在）

エントランスポール：松下電工(株)製

型　式	品　番
9型	CTP09SK、CTP09BK
10型	CTP10S、CTP10B
WP03型	DIP03B
WP04型	DIP04B
WP05型	DIP05B1、DIP05B2
ガーニッシュポール4型	DYF94331□、DYF94332□

サインポスト：松下電工(株)製

型　式	品　番
SP型	CT470、CT470B、CT471、CT471B
SS型	CT570、CT570B、CT571、CT571B
ニューM型	CT3731、CT3731B
GS型	CT560□、CT561□、CT562□、CT5622□、CT5623□

● サインポストに取り付けるとき

➡ サインポストに取り付けられている呼出ボタン(ユニット部)を外し、ドアホン(露出ケースを除く本体部分)を取り付けてください。

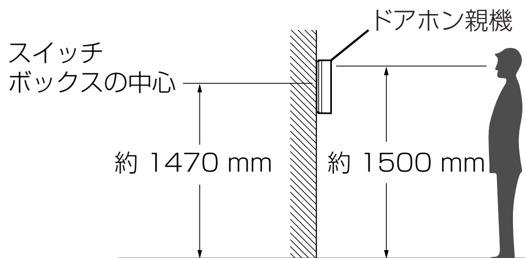
➡ サインポストの蛍光灯回路(AC100 V)とは別のケーブルを使用し、新しく配線してください。

➡ カメラ角度調節台(別売品)は、使用できません。

ドアホン親機を取り付ける

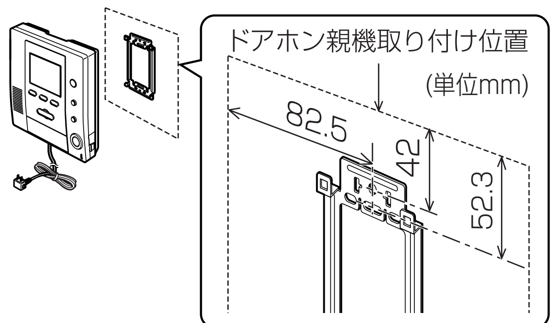
ドアホン親機の取り付け位置(高さ)について

よくご利用になる方の目の高さにモニター画面の中心がくるよう取り付けてください。
（例）床から約1500 mm の高さに画面の中心がくるように取り付けるとき



壁掛け金具の取り付け位置について

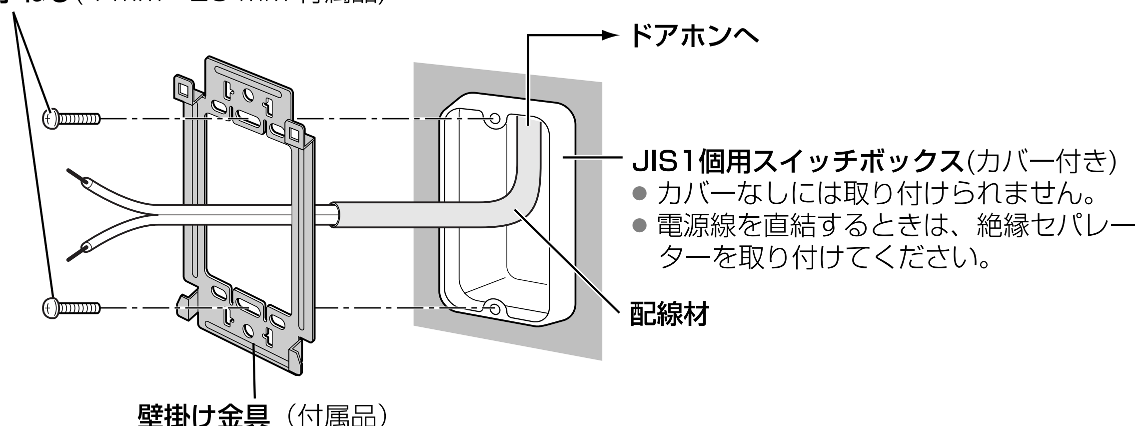
ドアホン親機の取り付け位置が指定されている場合、壁掛け金具は下図の位置に取り付けてください。



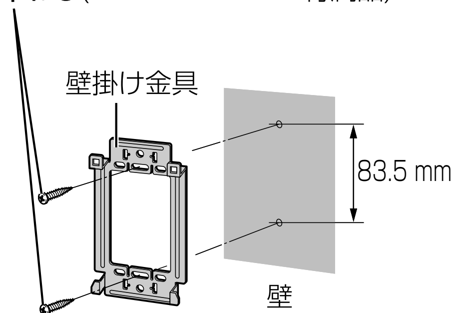
ドアホン親機を取り付ける（つづき）

1 壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスに取り付けるとき

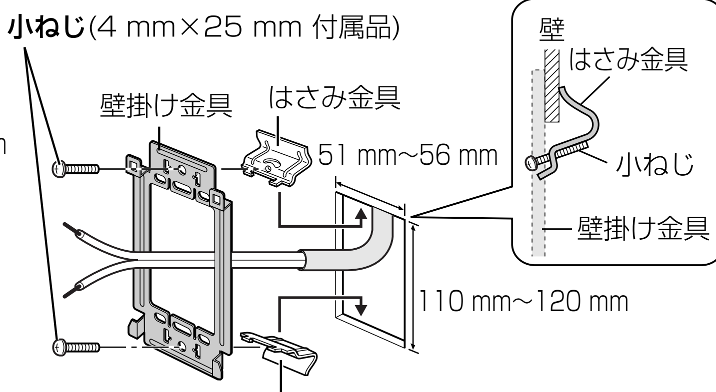


■ 壁に直接取り付けるとき



■ パネル壁に取り付けるとき

石膏ボードなどの壁に下図のように穴をあけ、松下電工（株）製のはさみ金具を利用して取り付けてください。



● 松下電工 (株) 製

対象壁	はさみ金具品番
3 mm～10 mm厚の合板	WN3990K
7 mm～18 mm厚の石膏ボード	WN3993020

 お願い

● 壁掛け金具は、垂直で平らな壁に取り付けてください。

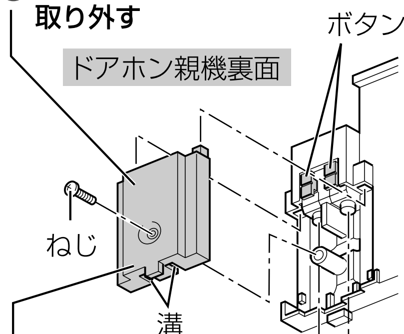
(次ページにつづく)

ドアホン親機を取り付ける（つづき）

2 [AC100 V 電源線を直結する場合のみ]

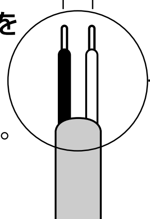
電源線を接続する 電気工事士の資格が必要

❶ 電源コードカバーを取り外す



❹ 電源コードカバーを取り付ける

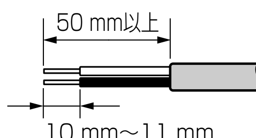
- 電源線を溝に入れてください。



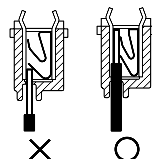
❷ ボタンを押しながら、電源コードを取り外す

❸ ボタンを押しながら、AC100 V電源線を接続する

1. 被ふくを10 mm ～ 11 mm むく（線種：φ 1.6 およびφ 2.0 単芯線）



2. 奥まで確実に差し込む



〈AC100 V 電源線接続端子断面図〉



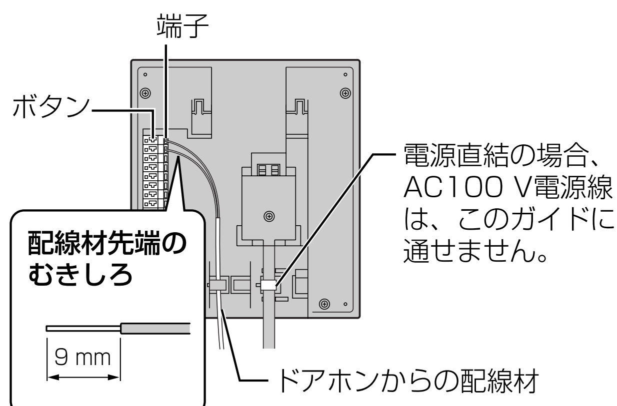
奥まで確実に差し込む



差し込みが不十分な場合、発熱の原因になることがあります。

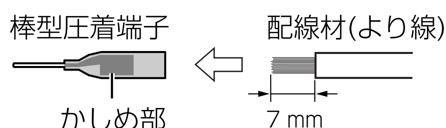
3 配線材を接続する

●「配線系統図」(14 ～15ページ参照)に従って正しく接続してください。
●配線材の抜き差しは、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら行ってください。

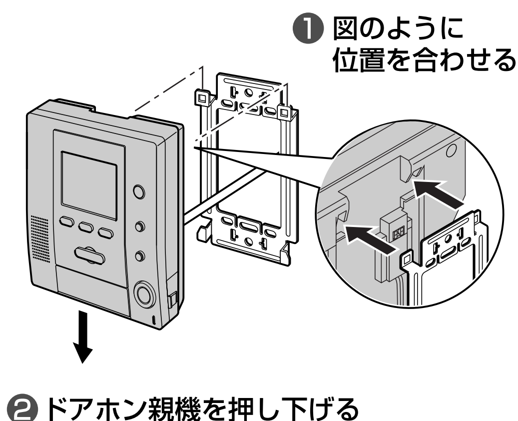


お願い

●配線材の線種が「より線」の場合は、より確実に結線するため、棒型圧着端子(付属品)を取り付けてから接続してください。



4 ドアホン親機を取り付ける



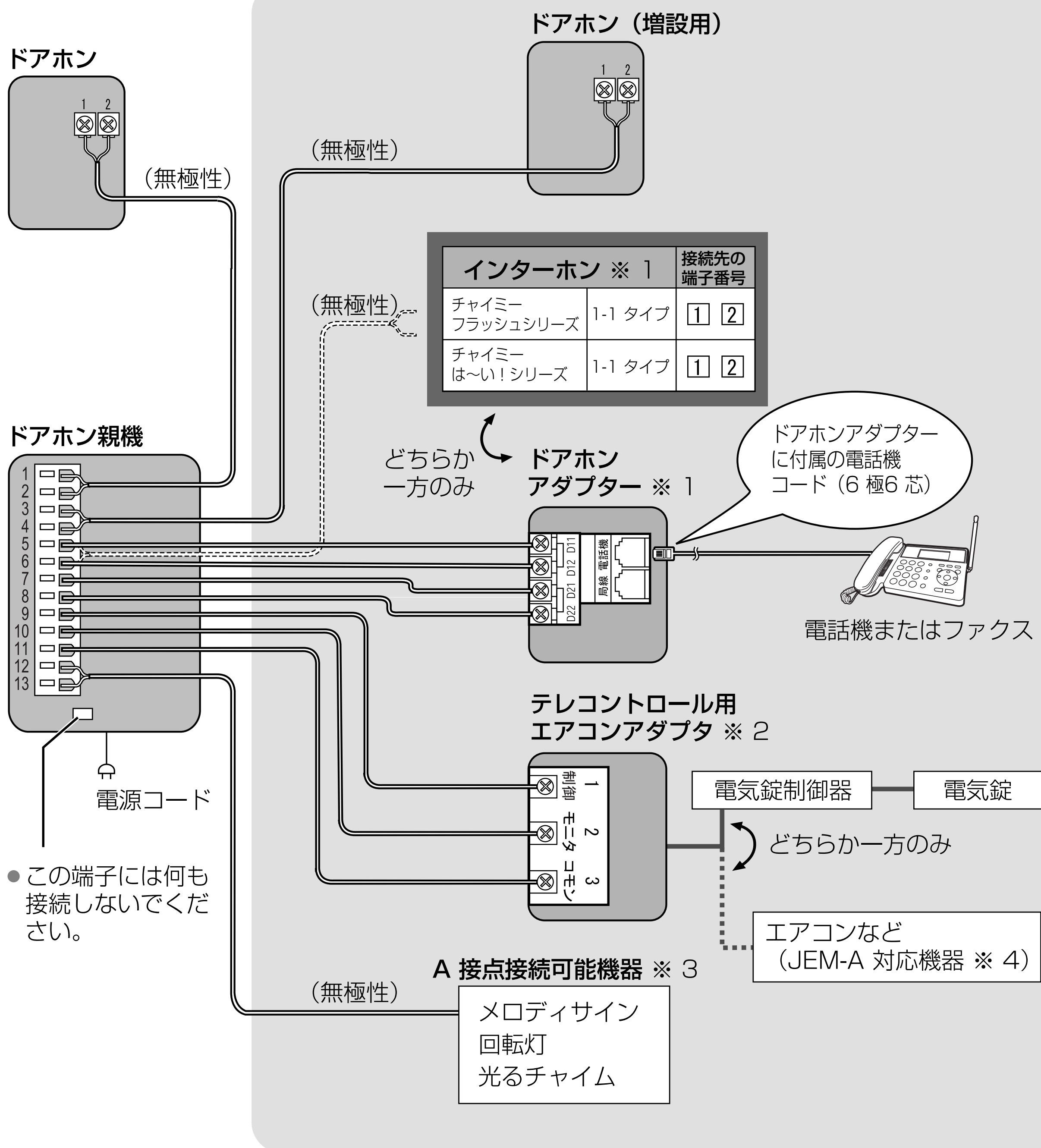
5 [電源プラグで使用する場合のみ]

電源プラグをコンセント(AC100 V)に差し込む

配線系統図

以下の配線系統図および次ページの「線種と配線距離」に従って正しく配線してください。

● A 接点などの機能設定を変更する場合は、取扱説明書 ドアホン親機操作編の「機能を変える」を参照してください。



※1 インターホンまたはドアホンアダプターを接続する場合は、設定が必要です。
取扱説明書 ドアホン親機操作編の「機能を変える」を参照してください。

※2 テレコントロール用エアコンアダプタに接続した機器を操作(ON/OFF)するには、設定が必要です。
取扱説明書 ドアホン親機操作編の「F ボタンに機能を登録して使う」を参照してください。

※3 ● **下記の定格に適応した機器を接続してください。並列接続はできません。**
（故障の原因になります。）
・定格負荷：AC 、DC 24 V / 0.5 A 以下
・最小適用負荷：DC 5 V / 1 mA
● ドアホンの呼び出しに応答すると、A 接点出力は OFF になります。応答しなかった場合、A 接点出力は約30 秒間 ON になります。（動作の詳細は、接続機器の説明書をご覧ください。）

※4 (社)日本電機工業会(JEMA)の標準 HA 端子をもつ端末機器を指します。

線種と配線距離

下表の線種・配線距離以外で使用されると、動作不良の原因になります。

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機～ドアホン	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm)：φ0.65～φ0.8	100 m以内

●別売品を接続するとき

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機～インターホン	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm)：φ0.65 ～φ0.8	100 m以内
ドアホン親機～ドアホンアダプター	インターホン用平行 2 線式ケーブル (4線式も可) 単芯線(mm)：φ0.65 ～φ0.8	
ドアホン親機～テレコントロール用エアコンアダプタ	単芯線(mm)：φ0.65 ～φ0.9	30 m以内
ドアホン親機～A 接点接続可能機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm)：φ0.65 ～φ0.8	接続する機器の仕様に従う

パナソニック コミュニケーションズ株式会社
ホームネットワークカンパニー
〒812-8531　福岡市博多区美野島4丁目1番62号

PFQX2195YA　SC0505MT1085